

平成30年度を振り返って

倉敷教育センター 館長 藤井 朗

平成30年の夏は、我が街、倉敷市にとって本当に「特別」な夏となりました。7月の豪雨により、真備地区を中心に甚大な被害を受け、その過酷な現実を受け止め、復興に向けて、一步を踏み出す夏となりました。

教育センターでは、当面の教員研修の中止を余儀なくされましたが、復興支援を最優先に、職員一丸となって様々な被災地支援に取り組みました。その中の一つに、避難所に避難している子どもたちへの学習支援があります。避難所である学校や公民館、そして、ボランティア団体等の御協力をいただきながら、子どもたちが避難所で勉強をすることができる環境を整え、学習支援を行いました。それらの活動を通して、教師とは『子どもの成長を子どもの側で、寄り添って、成長を支えていくためにいる。』という当たり前のことに改めて気付かされ、日々の仕事に追われていては教育の本質を見失ってしまうと痛感しました。今後、教育センターもその教育の本質を見失うことなく、「子どもの成長を支える」一助となるよう頑張りたいと思っています。



さて、今年度から、初任者研修に始まり、15年経験者研修に至る「経験年数別研修講座」を大きく見直しています。学校現場では世代交代が進んでおり、20代の若手教員が増え、意図的・計画的な人材育成が求められています。そこで、教育公務員特例法の法改正に合わせて、研修内容を充実させ、働き方改革の視点も考慮しながら、「経験年数別研修講座」の見直しを推進しています。

大きな変更点は、「5年経験者研修」を廃止している点と、「中堅教諭資質向上研修」の実施年に幅をもたせている点です。見直し完了の平成32年度には、実施年に3年（8～10年目教諭を受講対象）の幅をもたせる予定です。今年は見直し1年目となるので、10～11年目の先生全員が受講対象で、105名の先生方が熱心に研修に取り組んでくださいました。また、研修内容については、「中堅教諭資質向上研修」をプレミドルリーダー研修として位置付け、ミドルリーダーとしての資質の土台を築く研修を目指しています。今後、内容を更にブラッシュアップさせながら進んでまいります。

続いて、「適応指導」ですが、今年度は、市内5つの適応指導教室に約60名の子どもたちが学校復帰を目指して、同じ教室の仲間とコミュニケーションを図りながら、体験活動や勉強に取り組みました。本年度は、新しい取組として、今までライフパーク倉敷の大きな会場に集まり、合同でしていた「ふれあい文化祭」を5つの教室ごとに開催しました。そうすることで、慣れ親しんだそれぞれの教室で、より個に応じた表現活動をすることができ、多くの子どもたちが充実感、達成感を感じる行事となりました。また、御参加くださった校長先生をはじめ、在籍校の先生方からは「間近に見ることができ、子どもたちと会話もしやすかった。」「学校から近くなり、参加しやすかった。」等の感想もいただきました。

最後になりましたが、この1年間、教育センターの諸事業に温かい御協力をいただき、心から感謝申し上げます。そして、今後とも変わらぬ御理解と御支援をどうぞよろしくお願い致します。

倉敷教育センター
マスコット「サミー」

平成30年度 全講座が終了しました。

中堅教諭資質向上研修 最終回

「特定課題研究発表会」



特定課題研究発表会は、1年間取り組んできた研究の発表の場となり、1月11日(金)、18日(金)、25日(金)の3日間で開催しました。また、3年目研修とリンクし、同講座の受講者が自らの課題や研究に資するようにと、プログラムから発表を選択し協議にも参加しました。発表内容は、中堅の先生方にふさわしく、教科指導、学級経営、特別支援教育、生徒指導、生徒会活動等と多岐にわたり、各自が設定したテーマに従って研究を重ねた成果ばかりで大変充実していました。各学校から校長先生や来年度受講予定の先生方も聴講され、各会場に活気があふれていました。この研修を機に、ミドルリーダーとしての更なる飛躍が期待されています。



【参加の校長先生方のアンケートから】

それぞれの先生方は、自分の学級や児童の実態をきちんと把握し、課題を設定し、その課題の解決に向け真摯に取り組んでおり、その姿に頼もしさを感じました。また、3年目の先生方の参加というのも、先輩からのアドバイスの場となり、3年目の先生方にとっても有意義であると感じました。

【中堅研受講者のアンケートから】

みなさん、多忙な業務の中、自分の数歩先をいく取組をされていて、勉強になっただけでなく、刺激を強く感じました。日常の実践の中にすぐ取り入れられることから、もう一度勉強し直さなければいけないことまで様々であったので、自己の研さんを重ね、先生方に負けないように頑張っていきたいです。

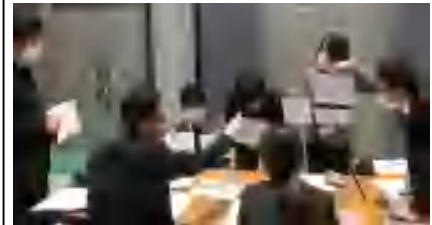
3年目研修 最終回

実践発表「学級経営・教科指導」

3年目研修の最終回は、各自がテーマを決めて取り組んできた教科指導または学級経営に関する課題研究の実践発表及び協議でした。

【受講者のアンケートから】

- ・ この一年間の実践をまとめ、発表したことで、自分の実践を見直したり、やってきたことに自信をもてたりして、充実した時間になりました。
- ・ 同期の取組には、新しい発見や今自分が抱えている課題を解決するためのヒントがたくさんありました。そして、同期の頑張っている姿は刺激になりました。
- ・ 自分の発表に対して、熱心に質問をしてくださる同期の姿からは、「学び続ける姿勢」の大切さに改めて気付かされました。3年目が終わろうとしている今、自分を振り返り、新たに頑張っていこうと思いました。



平成30年度受講者数

1 初任者研修	1,525名	15 学校カウンセリング研修	中止
2 2年目研修	434名	16 いじめ問題研修	85名
3 3年目研修	415名	17 常勤講師研修	177名
4 中堅教諭資質向上研修	823名	18 常勤講師研修2年目以降	258名
5 15年経験者研修	46名	19 幼稚園助教諭研修	54名
6 新任教務主任研修	80名	20 幼児教育に関する研修会	211名
7 特別支援教育新任担当教員研修	69名	21 特別支援教育に関する研修会	543名
8 特別支援教育コーディネーター研修	98名	22 生徒指導に関する講演会	136名
9 通級指導教室担当教員研修	53名	23 小学校授業研修会	24名
10 発達障がい研修	280名	24 中学校授業研修会	56名
11 学校組織マネジメント研修	33名	25 学校・家庭・地域の連携促進事業関係者等研修会	中止
12 生活支援員研修	65名	26 学校事務職員研修会	中止
13 発達検査研修	中止	27 学校事務職員スキルアップ研修	94名
14 特別支援学級スキルアップ研修	137名	28 新たな学びに関する教員の資質向上プロジェクト	35名
		29 国際教育研修会	中止

初任者研修最終回&オープン講座 記念講演

「新しい学習指導要領で求められている絶え間ない授業改善
～未来を切り拓くために必要な資質能力を育むための
主体的・対話的で深い学びの授業を実現して～」

岡山理科大学理学部

教授 藤本 義博 先生



岡山県内の中学校,岡山大学教育学部附属中学校,岡山県教育委員会指導課,倉敷市立西中学校で御勤務の後,倉敷情報学習センター 館長,文部科学省国立教育政策研究所 学力調査官・教育課程調査官を歴任されました。新学習指導要領(答申)や授業改善の様々な事例をもとに,今,教員に求められていることについてお話くださいました。



「主体的・対話的で深い学び」の実現とは,特定の指導方法のことで,学校教育における教員の意図性を否定することでもない。人間の生涯にわたって続く「学び」という営みの本質を捉えながら,教員が教えることにしっかりと関わり,子供たちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え,授業の工夫・改善を重ねていくことである。

(平成 29 年 12 月 21 日 中央教育審議会 答申より)

【研修のキーワード】

カリキュラム・マネジメント,単元のまとめり
課題解決力,創造力,各教科等の見方・考え方
協働・協同・協調学習,見通し,授業改善
主体的・対話的で深い学び,生活と結びつける
3つの資質・能力

<受講者の感想より>

- ・ 動画や写真,絵などの視覚的な支援に,子どもたちは進んで授業に取り組むことができると感じます。藤本先生のお話のように,「学ばせたいこと」から教材や学習活動を考え,子どもたちが興味・関心をもって学習に向かえるように手立てを工夫したいと思います。
- ・ 各教科の特質に応じた見方・考え方の具体的なイメージがわいてきました。資料を再度読んで理解したいと思います。対話的な学びにしたいのであれば,教職員自身をもっと対話をしなければならないというお話も印象に残っています。教職員間の対話を大切にしたいです。
- ・ 3年目の先生の実践を聞いて,自分にしかできないことがあるかもしれないと思うことができました。ベテランの先生,若い私たちがそれぞれのよさを生かして学校運営することの大切さも学びました。各教科の見方・考え方をもう一度見つめ直して授業づくりをしたいです。
- ・ 自己と対話する活動も対話的であると知りました。生徒に活動をさせたら力が身に付くのではなく,きちんと計画して,見通しをもった学習をさせなければいけないと思いました。生活に結びつけて学習すると生徒は興味をもち,主体的になると学んだので,意識していきたいです。
- ・ 教科指導の先生に何度も言われていた「単元を見通す」ことの重要性を再度理解できました。教職に就き,1年経ってやっと生活に慣れてきた頃ですが,日々教育現場は変化していることに改めて気付きました。常に新しい情報を取り入れ,学び続けていきたいです。

倉敷ふれあい教室めぐり

真備教室

豊かな自然と歴史，
文化に囲まれて・・・

倉敷ふれあい教室真備教室は、倉敷市真備保健福祉会館3階にあります。
7月の西日本豪雨で、真備保健福祉会館は被災してしまいました。幸い教室と職員室は3階にあるので、勉強やなかよし活動で使う道具などは無事でした。真備保健福祉会館の中には、消防署や児童館などが入り、毎日たくさんの人達が行き交うところとなりました。

そんな環境の中、毎日午前中の活動は、自分で決めたスタディに取り組み、その後、なかよし活動をいろいろと工夫、協力して楽しく行っています。

「創作活動」では、ひょうたんに模様をつけたり、穴をあけたりして、アート作品を作ったり、心を落ち着かせて習字をしたり、本格的なペーパーナイフを使って切り絵をしたりしました。

「調理実習」では、なかよし会議でそれぞれ作ってみたいものや、季節に合わせた献立を話し合っています。

「スポーツ」では、教室で卓球をして楽しんでいます。



また、月に一度は「奉仕活動」として、保健福祉会館の階段や、ベランダを清掃しています。

そのほかにも、春の遠足で岡山城に行き、駅周辺で買い物などをしました。事前に岡山城主の歴史の学習をして、当日は展示物をゆっくり見てまわりました。天守閣から見た景色は、とてもきれいで良い思い出になりました。

真備教室では、毎月の目標を決めて、日々の活動を通して仲間と協力しながら、元気よく楽しんだり、挑戦したりして、「感動」と「希望」がもてるように過ごしています。

おっ!? そうだ!

教育センターの **教科書展示室** に

寄ってみよう!

研究集録を読みたい!

各社の**教科書**が見たい!

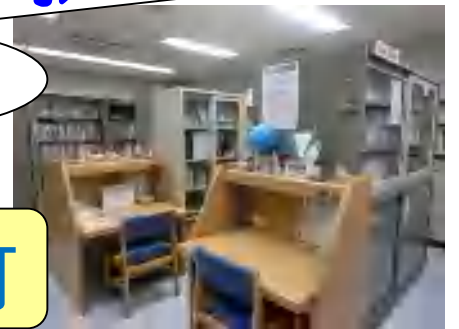
次の物を展示しています。

- ・ 各社の教科用図書
- ・ 小、中、特別支援学校の研究集録
- ・ 研究団体の研究集録（岡山県や他市の教育センター、大学等）
- ・ 教育に関する雑誌・図書
（「教育時報」「実践障害児教育」「学校教育相談」等）
- ・ 研修講座での実践発表、作成した学習指導案等



教育センター
事務室の隣だよ!

貸出可



1か月まで 貸し出すことができます。（1冊しかない教科用図書は閲覧のみとなります。）

開館時間は、月曜日～土曜日の9時から17時15分です。（日曜日と祝日は閉館日です。）

月曜日（月曜日が祝日の場合は火曜日）はライフパークの休館日ですが、教育センターは開いています。入口の御案内をしますのので、来られる方は事前に御連絡ください。

倉敷教育センター ☎ 086-454-0400

本(ほしぼん)で研究だ!

特別支援学校では、小・中・高等学校と同じ教科書のほか、子どもの障がいの状態に合わせて作成された教科書などを使っています。文部科学省では知的障害者用に、通称「本(ほしぼん)」と呼ばれる教科書を作成しています。小学部用には「こくご」「さんずう」「おんがく」、中学部用には「国語」「数学」「音楽」があります。倉敷教育センターで貸し出しが可能です!

特別支援学級等の
指導の参考に

